



## 研究

世界三十傑大学にふさわしい総合研究大学として、卓越した学術研究を通して知を創造するとともに、新たな学問領域の開拓とイノベーション創出を力強く推進します

### 2030年の大学の姿

「研究第一」の伝統を基盤として、深い学術的理解を追究する卓越した基礎研究を推進します。さらに、若い才能を惹きつける知の創造拠点を形成し、特色ある分野で世界トップレベルの研究力を発揮するとともに、時代を画する新たな学問領域の開拓とイノベーションの創出を一層強力に進めます。

## 重点戦略 ⑤

### 未来の価値創造への挑戦

#### 主要施策

#### 13. 自由な発想に基づく基礎研究の推進および新興・分野融合研究の開拓

学術の多様性を基盤として研究者の自由な発想で生み出される基礎研究を力強く推進するとともに、専門分野の壁を越えた学際研究・分野融合研究をダイナミックに展開することにより、世界を先導する研究フロンティアを開拓します。

#### 14. 世界トップレベル研究の推進

本学が、これまでの伝統と実績に基づいて世界的に卓越した強みを有する「材料科学」および「スピントロニクス」分野において、理学と工学を横断し、基礎研究から応用研究・社会実装までを一貫して推進する世界トップレベル研究拠点の着実な強化を行います。さらに、東日本大震災を踏まえ、本学が世界に先駆けて創成すべき研究分野として「未来型医療」および「災害科学」における文理融合型研究拠点の重点的な強化を行います。

#### 15. 世界の学術におけるフロンティア領域の開拓・先導

本学が世界レベルのポテンシャルと研究資源を有する、「宇宙創成物理学」、「環境・地球科学」、「生命科学」、「データ科学」、「機械科学」、「日本学」をはじめとする研究領域を戦略的に強化し、世界を先導する国際研究クラスターとして国際プレゼンスの高い拠点形成を目指します。

#### 16. 持続可能で豊かな未来社会の実現に向けた社会課題解決への挑戦

本学の総合的な知を活用した社会課題解決型研究（「社会にインパクトある研究」等）を推進し、持続可能で豊かな未来社会の実現に向けた社会・経済システムの変革とイノベーション創出を先導します。

これらの研究の成果を基に、国際社会が一致して課題解決を目指す「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs)」への積極的貢献を果たします。

## 重点戦略 ⑥

### 世界三十傑大学にふさわしい研究システム変革

#### 主要施策

#### 17. 「高等研究機構」を頂点とした横断的分野融合研究を戦略的に推進するための三階層「研究イノベーションシステム」の構築

研究組織をミッション別に三層化することにより、部局の壁を越えた研究ユニットを機動的に編成可能とし、戦略的な国際研究拠点形成を加速するとともに、分野融合研究を推進する研究体制として「研究イノベーションシステム」を構築します。特に、高等研究機構、附置研究所群、研究センター群等が主体となって、卓越した伝統を基盤にした研究力強化と新領域創成のための組織改革を推進します。

#### 18. 大型研究施設等を積極的に活用した戦略的研究連携の推進

次世代放射光施設の整備などを契機として、国立研究開発法人をはじめとする有力な学外研究機関との戦略的研究連携を推進します。また、本学が強みを有する分野の国際プレゼンスの向上、研究力の強化を目的として、附置研究所・センターの共同利用・共同研究拠点機能およびクロスアポイントメント制度等を活用した本学と他機関の戦略的な連携を推進します。

#### 19. 社会システムを構想・提案し、政策科学を先導するシンクタンク機能の強化

人文・社会科学と自然科学の学知を広く総合化し政策提言と社会実装へ結実させるための本学独自のシンクタンク機能を強化することにより、国、地方自治体および経済界との多様な協力体制を構築します。

#### 20. 文化・学術資源の世界発信と人文系研究分野の国際拠点化

附属図書館、史料館、総合学術博物館等に蓄積した本学固有の膨大かつ貴重な文化・学術資源を世界の研究者・市民に開放し、オープンサイエンスの基盤として広く利活用を促進するシステムを構築するとともに、人文系研究拠点としての機能強化を図り、国際的求心力を向上させます。

## 重点戦略 ⑦

## 次代を担う卓越した若き才能の育成・支援

## 主要施策

## 21. 独創性豊かな若手研究者を世界各地から惹きつける場の創出

高等研究機構を中心として、国際公募等により常時200名規模の若手研究者を世界各地から集め、研究活動に専念できる環境を整備することにより、若手研究者の活躍の場を創出します。また、優秀な若手研究者の育成・定着を図る取組として、東北大学版テニュアトラック制度を充実するとともに、「若手版ディスティングイッシュトプロフェッサー制度（仮称）」等の新たなインセンティブ付与制度を創設します。さらに、日本の大学で初めて本格導入した訪問滞在型の研究プログラム「知のフォーラム」でノーベル賞級の研究者とコラボレーションする機会を提供するなど、若手研究者にとって魅力ある環境を創出します。

## 重点戦略 ⑧

## 卓越した学術研究を追求するための環境基盤の整備・充実

## 主要施策

## 22. ダイバーシティの推進による開かれた研究環境の整備

新たな研究フロンティア開拓の原動力となる自由な発想が生まれる多様で開かれた研究環境の構築に向けてダイバーシティを推進します。女性研究者・外国人研究者などの採用を促進する方策を講じたうえで、ワークライフバランスに配慮した多様で柔軟な新たな研究活動を可能とする環境を整備し、女性研究者・外国人研究者などの雇用機会の拡大を図るとともに、多様な研究者が、多様な価値観のもとに活力をもって働ける環境整備を推進します。

## 23. サバティカル制度等の戦略的活用による頭脳循環の促進

全ての教員がサバティカルを取得できる体制を整備するとともに、サバティカルを活用した研究者の相互交流を促す新たな制度を確立し、国内はもとより国際的な頭脳循環を促進します。さらに、高等研究機構、附置研究所・センター等を活用し、一定期間研究に専念できる制度（学内サバティカル制度）を創設し、学内頭脳循環を促進します。

## 24. 多様な研究力を引き出す研究支援機能の充実・強化

総合技術部、テクニカルサポートセンター、URA（University Research Administrator）センター、附属図書館等を分散型キャンパスに適した研究支援組織として構築するとともに、大学を取り巻く動向を迅速に把握・対応できるように本部と部局の連携機能を抜本的に強化します。さらに、教員の委員会等に関わる業務の見直しや教員による事務的業務の軽減を通して、卓越した研究を推進するための研究時間の確保を図ります。